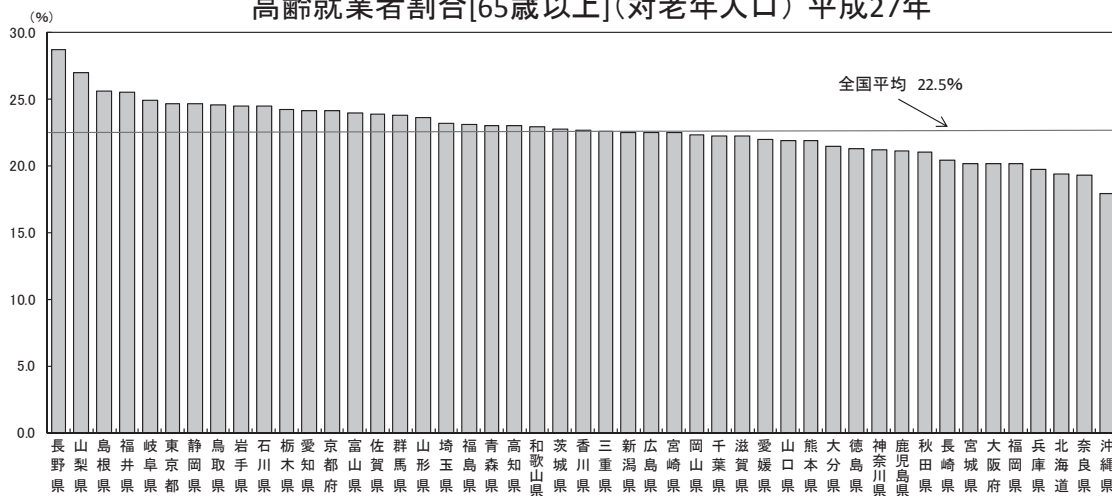


# FOCUS・都道府県の統計

## 高齢者が多く働いている都道府県はどこ？

少子高齢化が進む中、人手不足の緩和と年金制度の安定化を実現させるため、政府は企業の継続雇用年齢を65歳から70歳に引き上げる方針を表明しました。働き手としての高齢者の重要性は、今後ますます高まりますが、高齢者が多く働いている都道府県は一体どこなのでしょう。65歳以上の人口に占める就労者の割合を比較すると、長野県や山梨県が上位に並んでいます。上位の県では、高齢者による就労割合の高い農業が盛んなことに加え、行政による高齢者の就労へのサポートも充実しています。長野県では高齢者と企業やNPOなどを繋ぐシニア活動コーディネーターを配置することで、山梨県ではやまなしシニア世代就労推進協議会が求人開拓や求人情報の提供を行うことで、高齢者の労働参加を促しています。

高齢就業者割合[65歳以上](対老年人口) 平成27年



※老年人口とは、年齢65歳以上の人口総数  
 ※就業者とは、従業者(賃金、給料、諸手当、内職収入などの収入を伴う仕事を1時間以上行う者)と、休業者(仕事をしながら仕事をしなかったもののうち、賃金の支払いを受けることになっている等の条件を満たす者)を合わせたもの  
 (出所)総務省統計局「統計でみる都道府県のすがた2018」

## 編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は第一生命経済研レポートをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。皆様からいただくご意見を参考に、より一層お役に立てるよう努力していきたくと思います。本年もどうぞよろしく申し上げます。

平成最後の年、今年の干支は亥。亥といえば一般的には猪突猛進、真っ直ぐ突き進むというイメージだが株式市場の格言では「・・・申酉騒ぎ、戌笑い」ときて「亥固まる」と言われている。「騒ぎ、笑い」ときて「固まる」とくれば皆さんはどんなイメージをお持ちになるだろうか。楽しい宴の後の心地良い疲れから動かない感じを思い浮かべる人が多いのではないだろうか。この後「子は繁盛」と続くことを考えるとそうイメージすることが普通だと思う。

しかし今回は少し違った見方もできるかもしれない。ブレグジットだ、トランプ大統領誕生だと大騒ぎしたのが2016、17年。2018年は歴史的な米朝首脳会談による緊張緩和、米中新冷戦か?とか言いながらも世界経済は好調を維持しており心配し過ぎるのも良くないこの頃は楽観論も幅を利かせるようになってある意味笑っていた年だった。ところが2019年は核の問題は何ら進展なく、保護貿易主義の勢いは益々強まり、楽観には何の根拠もないことが明らかになり「オイオイ、これはやっぱりマズイ」となって一旦市場がフリーズするという見方もできるような気がする。

「希望的観測は予測ではない」という言葉がある。楽観に支配されたマーケットではただの希望的観測がメインシナリオになっていたりする。動かないからと安心していただめな気がする。(H.S)